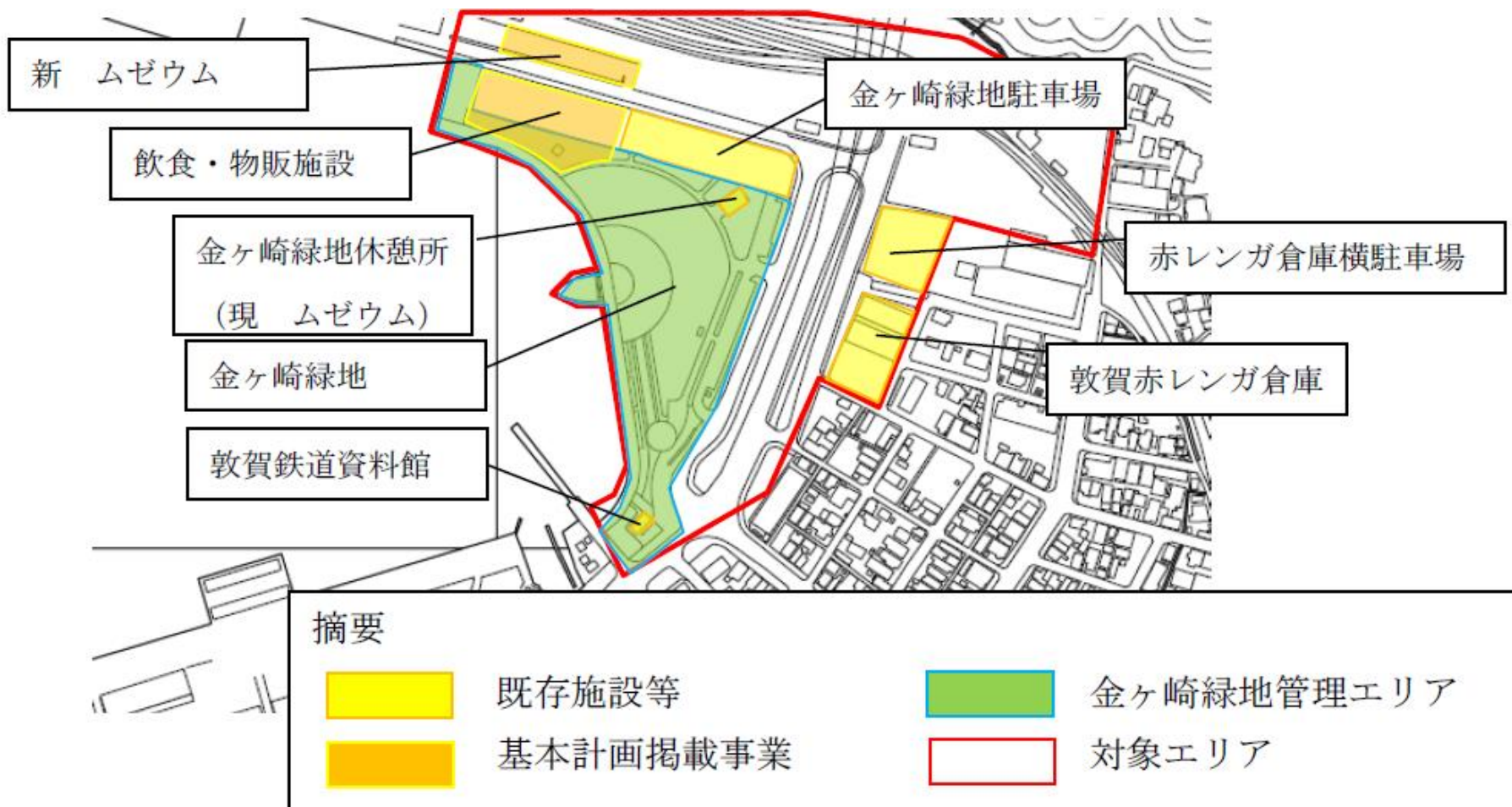


# 1. 対象エリア

- 金ヶ崎緑地公園、赤レンガ倉庫、鉄道資料館、休憩所（現ムゼウム）、新入道の港敦賀ムゼウム、官民連携施設（新規）、鉄道遺産活用施設（整備予定）を含む一体が対象エリア



## 2. 対象エリア内の施設概要

- 対象エリア内の施設の概要は以下のとおり。
- 対象エリアの用地／施設の所有者および管理者は施設により異なる。

施設名称	概要	施設種別	用地／ 施設所有者	施設等の管理方法
金ヶ崎緑地公園	敦賀港シンボル緑地	港湾緑地	県／県	指定管理（敦賀市）
赤レンガ倉庫	中核観光拠点	商業観光	市／市	指定管理（株）丹青社
鉄道資料館	鉄道のまち敦賀の発信施設	観光交流	県／市	委託
休憩所 （現ムゼウム）	ポーランド孤児、ユダヤ難民受 入時の敦賀港の功績を展示	展示・休憩	県／県	指定管理（敦賀市）→委託 （港都つるが株）
新人道の港 敦賀ムゼ ウム	観光交流センター ノスタルジー×人道の発信拠点	観光交流	県／市	指定管理（予定）
官民連携施設 （新規）	商業地域 臨港地区 約3,000㎡ 容積率400%	飲食物販	県／民	BOO（想定）
鉄道遺産活用施設 （整備予定）	転車台及び機関庫等の整備 SL動態保存 等	体験観光	民／民	未定

## 2.対象エリア内の施設概要

- 【金ヶ崎緑地公園】
  - 1999年の敦賀港開港100周年を記念する港湾整備事業で整備された。
  - 海沿いに敷設されたボードウォーク・ボードデッキから敦賀湾を一望することができる。
  - 冬季に集客を行うために2014年から開催しているミライエ（イルミネーション事業）の会場となる。



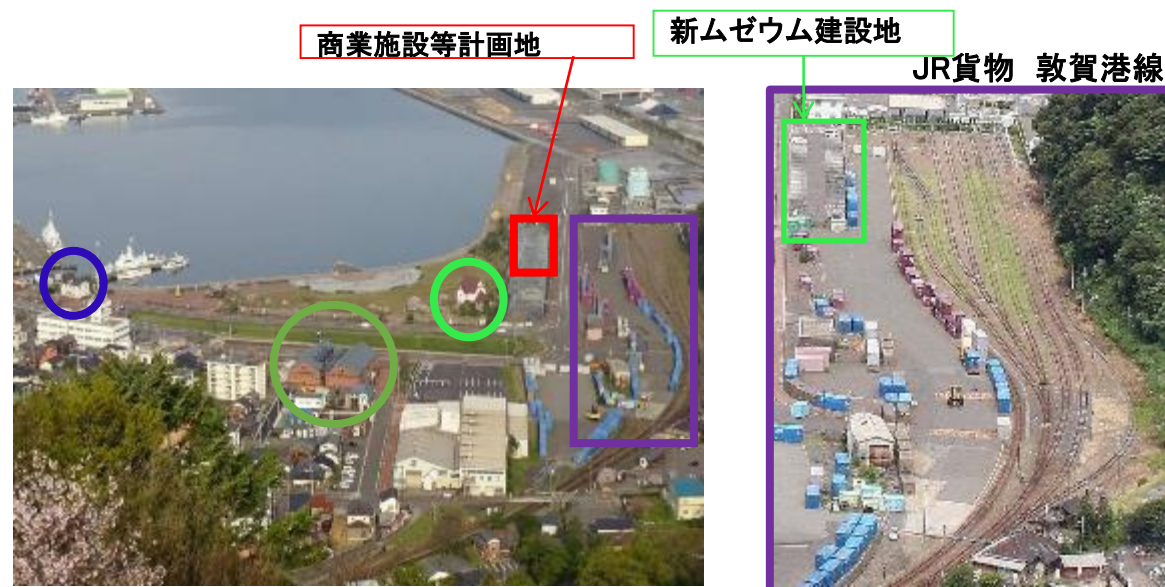
金ヶ崎緑地



ボードウォーク



ミライエ



鉄道資料館(旧敦賀港駅舎)



赤レンガ倉庫



人道の港 敦賀ムゼウム



## 2.対象エリア内の施設概要

- ・ 【赤レンガ倉庫】
  - 1905年に外国人技師の設計により建設。建設当時は石油貯蔵庫として使用された。
  - 現在は、北棟が鉄道と港の「ジオラマ館」、南棟が「レストラン館」に生まれ変わり、商業観光施設となっている。
  - 2009年に北棟・南棟・煉瓦塀が国登録有形文化財に指定された。

名称	概要
ジオラマ館	明治後期から昭和初期にかけての敦賀のまちなみを鉄道と港のジオラマで再現
レストラン館	「海と港、国際性」をコンセプトとし、ハレの場としても活用できる豊かな時間を提供 赤レンガcafé、生贄の甲羅、Sogno-Poliが営業
オープンガーデン	開放的で誰もが自由に立ち寄れるオープンガーデン 市民の憩いの場、オープンカフェやウェディング会場、季節感のあるイベント会場など多目的に利用可能



赤レンガ倉庫南館・北館



ノスタルジオラマ



南館内部

## 2.対象エリア内の施設概要

- 【人道の港 敦賀ムゼウム】
  - 後世に誇るべき博愛の精神を感じ、伝え継ぐミュージアムとして2008年に開館。
  - 1920年と1922年のポーランド孤児の受け入れ、1940年のユダヤ人難民の受け入れに関連する展示を行う。
  - 杉原千畝の映画化や「杉原リスト」の世界記憶遺産への登録申請で注目を浴び、2016年は前年の倍近くの利用者数を記録。

A.大陸への玄関・敦賀港  
東洋の波止場

B.欧亜国際連絡列車  
大陸横断

C.交流コーナー  
来館者のメッセージ交流

D.杉原千畝コーナー  
博愛精神第一

E.ユダヤ人難民  
自由と平和

F.ポーランド孤児  
感謝



延床面積	展示面積
278㎡	177㎡



人道の港敦賀ムゼウムの外観



展示室

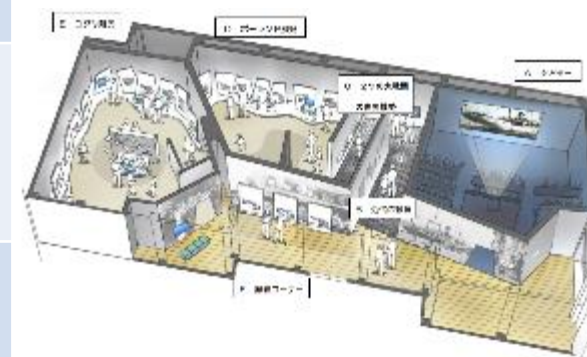
## 2.対象エリア内の施設概要

- ・【新人道の港 敦賀ムゼウム】
  - 金ヶ崎緑地に縁のある4棟（税関旅具検査所、敦賀港駅舎、大和田回漕部、ロシア義勇艦隊）を復元し、新しいムゼウムを移転拡充して整備。
  - 展示機能だけでなく、教育普及機能、調査・研究機能、収蔵機能、管理機能を拡充し、事業の充実を図る。

名称	概要
税関旅具検査所	唯一の平屋建てであり、面積も一番広く、高い天井の空間を有効に活用できることから常設展示の中心となる展示機能として整備する。
敦賀駅駅舎	往時は、敦賀港の玄関口であったことから、1階は、エントランスが相応しく、将来のJR貨物用地利用との結節機能を想定し、管理機能、メインゲート機能として整備し、2階には、もう一つの常設展示の中心となる交流展示機能を整備する。
大和田回漕部	1階は、導入展示機能（無料）等として整備し、2階は、常設展示だけでは、紹介しきれない展示やテーマ設定した企画展等を行う企画展示機能として整備する。
ロシア義勇艦隊	1階には、団体に一度に大人数の受け入れや、多目的に利用可能な研修室を整備し、2階は、今後の調査研究により更に資料が増えていくことを想定し、収蔵機能や調査研究機能等の管理機能として整備する。
屋外展示	往時、多くの方々が上陸した上陸地点を更に際立たせるため、隣接地に当時を連想させるようなモニュメントを整備し、復元3棟とあわせて写真スポットとして整備するとともに、ポーランド孤児やユダヤ難民が歩いたルートを追体験できるような誘導サイン機能として整備する。



4棟復元のイメージパース図



展示イメージ

### 3. 観光入り込み客数等

- 敦賀市の観光客入込数（延べ人数）は2018年で223万人となり、5年間で約40万人増加。
- 市内で最も観光客が多い氣比神宮は、福井県内でも有数の観光地である。また、敦賀赤レンガ倉庫は、オープン以来、敦賀市の主要な観光地として観光客を集めている。

敦賀市の観光客入込数（延べ人数）

（千人）	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
敦賀市	1,818	2,064	2,239	2,228	2,231

主要観光地入込状況（延べ人数）（入込数5万人以上）

（千人）	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
氣比神宮	655	662	747	740	721
あっとほうむ	166	169	168	174	168
金崎宮	156	148	130	129	130
氣比の松原（海水浴を除く）	97	89	85	94	85
敦賀きらめき温泉リラ・ポート	93	94	90	73	68
敦賀赤レンガ倉庫*	—	69	212	150	142
人道の港 敦賀ムゼウム	—	—	—	58	—

\* 2015年10月オープン

福井県観光客入込数（推計）より作成

### 3.観光入り込み客数等

- 2016年をピークとして入場者数が推移。ジオラマ館や人道の港 敦賀ムゼウムの利用者は大人の比率が高い。

敦賀赤レンガ倉庫の入館者数

(人)		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
ジオラマ館	個人	56,646	62,227	38,991	40,922
	団体	19,292	26,532	23,273	21,476
レストラン館	A店舗	8,077	31,530	24,676	21,082
	B店舗	16,330	32,839	25,160	20,307
	C店舗	21,924	40,886	39,180	39,321
合計入館者数		122,269	194,014	151,280	143,108

\* 2015年10月オープン

敦賀赤レンガ倉庫 事業報告書より作成

金ヶ崎緑地利用者数

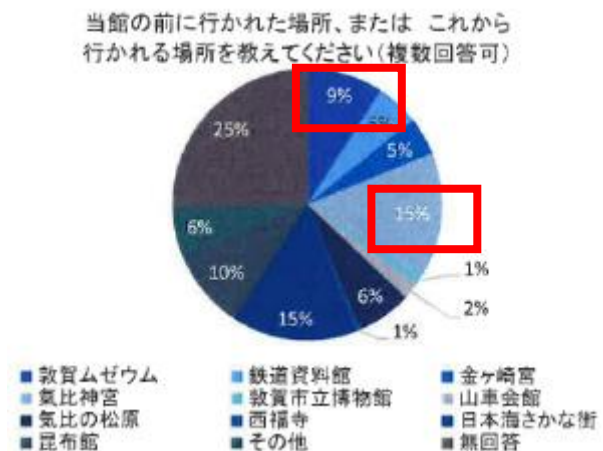
(人)		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
金ヶ崎緑地		—	—	118,917	75,456
管理棟		—	—	83,290	63,121
内 人道の港 敦賀ムゼウム		32,526	51,414	57,863	39,259

人道の港 敦賀ムゼウム管理日誌より作成

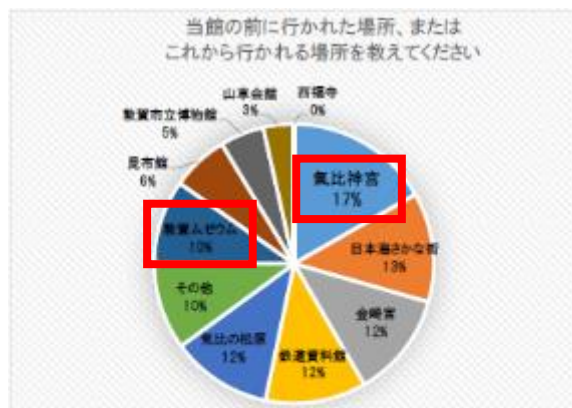


### 3.観光入り込み客数等

- 敦賀赤レンガ倉庫の利用の周辺観光施設の利用状況を見ると、各年ともに氣比神宮の割合が最も高くなっている（2016年度：15%、2017年度：17%、2018年度：13%）。また、日本海さかな街（海鮮市場）も人気のある施設である。
- 敦賀ムゼウムは、氣比神宮に比べると少ないが、徐々に赤レンガ倉庫との相互利用が増えている（2016年度：9%、2017年度：10%、2018年度：12%）。

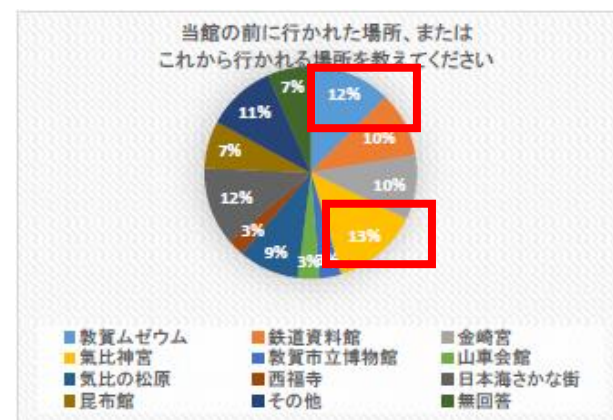


2016年度



2017年度

＜その他＞  
 ヨーロッパ軒(4)、あつとほうむ(3)、海(1)、永平寺(1)、金ヶ崎緑地(1)  
 北前船(1)、ごはんや(1)、小牧かまぼこ(1)、武生駅(1)、敦賀まつり(1)  
 友達の別荘(1)、墓参り(1)、福井(1)、松島水族館(1)、三方五湖(1)  
 リラ・ポート(1)



※その他  
 水晶浜(2)、手の浦海水浴場(1)、敦賀駅(1)、釣り(1)、ラーメン屋(一カ)  
 手筒山(1)、金ヶ崎緑地(1)、釣り(1)、山中温泉(1)、舞鶴市(1)  
 福井大学寮(1)、まだ決めていない(1)

2018年度

## 4. 関連施設の運営状況

- 敦賀赤レンガ倉庫の指定管理者の収支は以下のとおり。指定管理料を除く収入は3千万円/年程度。

(円)

費目		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
収入		41,083,247	59,851,321	55,709,666	62,145,320
	テナント料（家賃）	2,992,000	6,528,000	6,528,000	6,528,000
	入館料合計	24,832,580	29,920,600	20,853,280	18,742,686
	ジオラマ館体験料	306,100	324,600	241,000	243,100
	ガーデン使用料	7,500	2,500	0	5,000
	ギャラリー使用料	0	11,520	0	0
	その他の収入	0	16,246	865	626,534
	指定管理料	12,945,067	23,047,855	28,068,521	36,000,000
支出		41,083,247	59,851,321	55,709,666	62,965,272
収支		0	0	0	-819,952

## 4. 関連施設の運営状況

- 金ヶ崎緑地と人道の港 ムゼウムの委託料は以下のとおり。

(円)

費目		2017年度	2018年度
金ヶ崎緑地 管理運営業務委託料等		5,426,486	4,779,567
(主要支出)	緑地植栽管理	3,240,000	2,646,000
	緑地・休憩所清掃業務	1,620,000	1,620,000
	Wi-Fiシステム機器保守管理業務	181,440	181,440
人道の港 敦賀ムゼウム 管理運営業務委託		7,004,450	7,962,709
(主要支出)	通常管理運営業務委託料	6,784,560	7,772,760
	イベント連動業務委託料（開館時間延長等） 5件	219,890	
	イベント連動業務委託料（開館時間延長等） 3件		189,949

## 5. 北陸新幹線敦賀開業による経済効果

- 北陸経済研究所の試算によると、北陸新幹線敦賀開業による北陸地域での経済波及効果は約800億円と試算されている。
- 福井県内の経済波及効果は年間約210億円、雇用創出効果は年間約1,900人分と想定されている。
- 敦賀市では、以下のとおり敦賀駅乗降客数および観光入込客数、中心市街地の歩行者・自転車通行量の目標を定めている。

### ①敦賀駅乗降客数は、年間 330 万人を見込みます。

北陸新幹線敦賀開業に伴う、敦賀駅の利用者数を予測。

現状値 (参考)	261万9千人(2017年度)	→	目標値	330万人(2023年度)
-------------	-----------------	---	-----	---------------

現状値出典:敦賀市が西日本旅客鉄道(株)に独自に行なった聞き取り調査  
目標値算出方法:関連計画である「都市再生整備計画」(現在国へ申請中)における平成35年度の乗車人員数の目標値、4,510人/日をもとに、年間の乗降客数を設定した(乗車人員数と降車人員数は同数とする)。

### ②観光入込客数は、年間 253 万人を目指します。

北陸新幹線敦賀開業後の、敦賀市内観光施設への入込客数を予測。

現状値 (参考)	222万8千人(2017年)	→	目標値	253万人(2023年)
-------------	----------------	---	-----	--------------

現状値出典:福井県観光客入込数(推計)  
目標値算出方法:北陸財務局の調査などを参考に、これまでの国内新幹線延伸時の各県の開業年とその前年の入込数の比較を行い、平均して5.5%増加していたことから増加率を5.5%とし、「敦賀市観光振興計画」の2022年目標値240万人から5.5%増と設定した。

### ③中心市街地の歩行者・自転車通行量(休日)は、1日あたり6,700人を目指します。

来訪者増加による中心市街地のにぎわい創出に伴う、休日の中心市街地(5地点)の歩行者・自転車通行量を予測。

現状値 (参考)	5,799人(2018年度)	→	目標値	6,700人(2023年度)
-------------	----------------	---	-----	----------------

現状値出典:敦賀市歩行者・自転車通行量調査  
目標値算出方法:2009年度~2018年度の歩行者・自転車通行量の年間の増加率が1.7%であることから計画期間における毎年の増加率も同様とし、かつ新幹線開業に伴う乗降客数の増加分(25%)のうち、徒歩または自転車により移動する人の割合を6%(増加分の1/4)とし、開業年度の増加率は6%を加算し、2018年度の数値(5,799人)からの増加として設定した。